

STAR

ブロードカスター

取扱説明書

製品コード

K82029

型式 HBC1070

部品ご注文の際は、ネームプレートをお確かめの上、
部品供給型式を必ずご連絡下さい。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社



安全に作業するため

安全に関する警告について

本機には、印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて

危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。

警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。

警告



運転中又は回転中、スピナーニーに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。

周囲に人を近づけないで下さい。

部品番号 106418

注意



本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。

1. 作業に適した、だぶつきのない服装で行って下さい。
2. 酒を飲んだとき、酒気驶込み、病気や妊娠しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。
3. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。
4. 運転前に、必ず点検や調整をして下さい。
5. 点検や調整をするときは、必ず戸ドアなどの動力遮断や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。
6. 点検・調度で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。
7. 他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するよう督促して下さい。

部品番号 106419

注意



散布作業中、飛散物が当たり、ケガをすることがあります。

周囲に人を近づけないで下さい。

部品番号 106421

スター農機株式会社

STAR FARM MACHINERY MFG. CO.,LTD.

型式 MODEL	
部品供給 方式	
製造番号 MFG. NO.	

保守記入欄、誤用を防ぐために。

— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業者などへ危険を知らせる大事なものです。

ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す 部品番号 をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。

作業前には、作業機およびティラーの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作業前に

—取扱説明書は製品に近接して保存を—

▲注意

●機械の取り扱いで分からぬことがあります。取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処し、トラブルやケガをすることがあります。

取扱説明書は、分からぬことがあります。すぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

—取扱説明書をよく読んで作業を—

▲注意

●取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こすことがあります。

作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

—こんな時は運転しないでください—

▲警告

●体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こすことがあります。

次の場合は、運転しないでください。
□過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
□酒を飲んだ時。
□機械操作が未熟な人。
□妊娠している時。

—服装は作業に適していますか—

▲警告

●作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねくことがあります。

次に示す服装で作業してください。
□袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
□ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。

□ヘルメットを着用する。
□はしまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

—機械を他人に貸す時は—

▲警告

●機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からぬため、思わぬ事故を起こすことがあります。

取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

—機械の改造禁止—

▲注意

●機械の改造や当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねくことがあります。

機械の改造はしないでください。
アタッチメントは当社指定製品を使用してください。

部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

—始業点検の励行—

▲注意

●始業点検を怠ると、機械の破損や傷害事故をまねくことがあります。

作業を始める前には、取扱説明書に基づき点検を行ってください。

—エンジン始動・発進する時は—

▲警告

●室内で始動する時、排気ガスにより中毒になることがあります。

窓、戸などを開け、十分に換気してください。

▲注意

●エンジンを始動する時、走行クラッチ及びPTOクラッチを切り、エンジレバーを「N」にして行わないと、ティラーが暴走したり、作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。

走行クラッチ・PTOクラッチを切り、エンジレバーを「N」にして行ってください。

作業機を着脱する時は

▲注意

- 作業機をティラーに着脱する時、エンジンをとめずに行うと、誤操作によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。
- 作業機をティラーに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、ティラーが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。

移動走行する時は

▲警告

- 坂道でサイドクラッチを操作すると、ティラーが思わぬ方向に急旋回し、事故を起こすことがあります。
速度を遅くしてハンドル操作で旋回してください。
- 後進する時、足元や後方に障害物があると、転倒してティラーに巻き込まれたり、障害物との間に挟まれてケガをすることがあります。
障害物をさけ、低速で後進してください。

▲注意

- 坂道・凹凸地・急カーブで速度を出しすぎると、転倒事故を起こすことがあります。
低速走行してください。
- 高速で走行する時、旋回のためにサイドクラッチを切ると、ティラーが急旋回し、思わぬ事故をまねくことがあります。
ハンドル操作で旋回してください。
- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると、転落事故を起こすことがあります。
路肩は走行しないでください。
- 高低差が大きい段差を乗り越えようすると、ティラーが転倒あるいは横転し、ケガをすることがあります。
あゆみ板を使用してください。
- 作業機への動力を切らないで走行すると、周囲の人を回転物に巻き込み、ケガを負わせることができます。
移動走行する時は、PTOクラッチを切つてください。

作業中は

作業する時は

▲警告

- 運転中または回転中、スピナーニに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。
周囲に人を近づけないでください。
- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になることがあります。
窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

▲注意

- 散布作業中、飛散物が当たりケガをすることがあります。
周囲に人を近づけないでください。
- 傾斜地で走行クラッチを操作したり、チェンジレバーを「N」にすると、暴走することがあります。
走行クラッチ、チェンジレバーを操作しないでください。
- 運転中または回転中、カバーを開けると回転物に巻き込まれ、ケガをすることがあります。
カバーを開けないでください。
- 作業機の調整や付着物の除去などを行う時、エンジンをとめずに作業すると、第三者の不注意により不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
PTOクラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確めて行ってください。

ティラーから離れる時は

▲注意

- ティラーから離れる時、エンジンをとめずに傾斜地や凹凸地などに駐車すると、第三者の不注意によりティラーが暴走して思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で安定した場所に駐車し、ティラーのエンジンをとめてください。

作業が終わったら

機体を清掃する時は

▲注意

- エンジンをとめずに、回転部や可動部の付着物の除去作業などを行うと、誤操作または第三者の不注意によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、巻き込まれてケガをすることがあります。
P TOクラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

終業点検の励行

▲注意

- 作業後の点検を怠ると、機械の調整不良や破損などが放置され、次の作業時にトラブルを起こしたり、ケガをすることがあります。
作業が終わったら、取扱説明書に基づき点検を行ってください。
- エンジンをとめずに点検すると、誤操作または第三者の不注意によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、巻き込まれてケガをすることがあります。
P TOクラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめてから行ってください。

不調処置・点検・整備をする時

▲注意

- 機械に不調が生じた時、そのまま放置すると、破損やケガをすることがあります。
取扱説明書に基づき行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、ティラーや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- エンジンをとめずに作業すると、誤操作または第三者の不注意によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
P TOクラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。
- 不調処置・点検・整備のために外したカバ一類を取り付けずに作業すると、回転部や可動部に巻き込まれ、ケガをすることがあります。
元通りに取り付けてください。

もくじ

▲ 安全に作業するためには

安全に関する警告について	1	作業が終わったら	4
作業前に	2	不調処置・点検・整備をする時	4
作業中は	3		

1 ティラーへの装着

1 各部名称とはたらき	7	4 ティラーへの装着	8
2 適応ティラー	8	1. ティラーへの連結	8
3 組立部品	8		
1. 解梱	8		
2. 組立部品の明細	8		
3. 組立要領	8		

2 運転を始める前の点検

1 運転前の点検	9	2 給油箇所一覧表	9
1. ティラー各部の点検	9		
2. 連結部の点検	9		
3. 製品本体の点検	9		

3 作業の仕方

1 本製品の使用目的	0	4 作業要領	11
2 作業のための調整	10	1. 肥料	11
1. レバーの調整	10	2. 肥料の投入	11
2. エンジン回転数の調整	10	5 運搬	11
3. ティラーの車速	10		
4. 散布量の調整	11		

4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ	12	3 長期格納する時	12
2 ティラーからの切り離し	12		

5 点検・整備について

1 点検整備一覧表	13
-----------	----

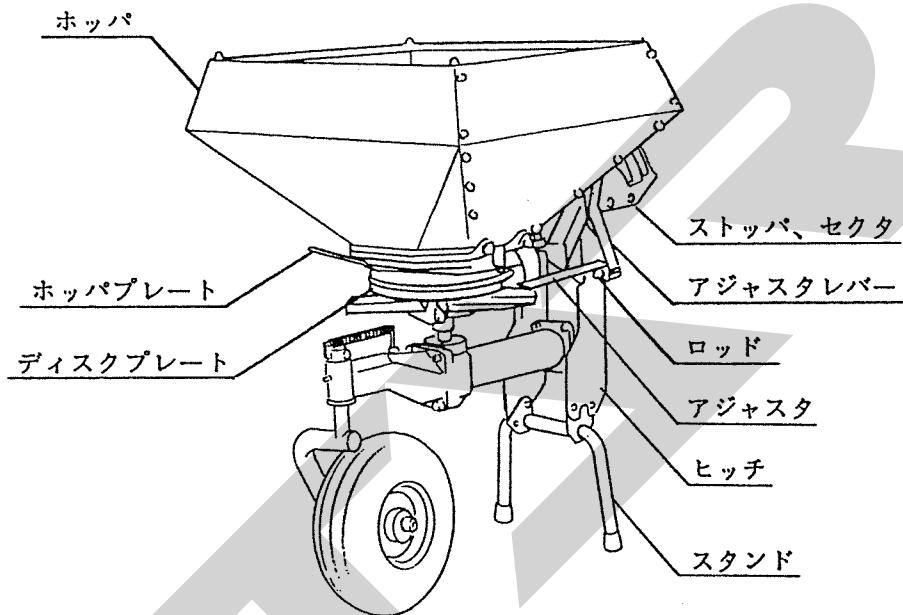
6 不調時の対応

1 不調処置一覧表	14
-----------	----

1 ティラーへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき



1. ヒッチ
本作業機とティラーを連結します。
2. スタンド
本作業機をティラーから切り離した時に、作業機の姿勢を維持するために使用します。
3. ホッパ
肥料を入れるタンクです。
4. ホッパプレート
肥料の種類に合わせ、肥料の落下口の位置を変えるために使用します。
5. ディスクプレート
アジャスタレバーを操作すると、ディスクプレートが回動し、肥料の落下口の開度が変わります。
6. アジャスター
肥料の種類に合わせ、ディスクプレートの落下口の位置を変えるために使用します。

7. アジャスタレバー
肥料の散布開始および終了をこのレバーの押し引きにより行います。
手前に引くと肥料の落下口が開き、押すと落下口が閉じます。
8. ストップ、セクタ
肥料の散布時、散布量を調整するために使用します。
肥料の落下口の開度は10段階に設定できます。
全閉時、アジャスタレバーの戻り止めのため、ストップをセクタの一番前側にセットしてください。
9. ロッド
アジャスタレバー全閉時に、肥料の落下口が全閉となるようにディスクプレートの位置を微調整するために使用します。

2 適応ティラー

本製品は、ティラー（ニューファームメイト）との装着により的確に性能を発揮できるよう設計されています。

この製品の適応ティラーは次のとおりです。

- ・HTK8070
- ・HTM8070
- ・HTY8070

3 組立部品

1. 解梱

木枠に固定している部品をほどいてください。

2. 組立部品の明細

梱包に同梱されている梱包明細に基づき、必要部品がそろっているか確認してください。

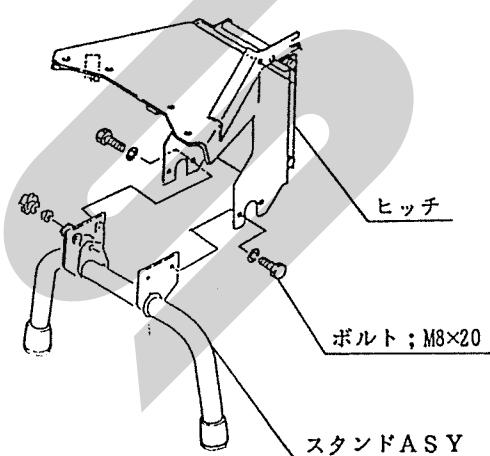
3. 組立要領

各部品の組立に必要なボルト・ナット類は、梱包明細の備考欄に「使用する部品の符号」を記載していますので、参照してください。

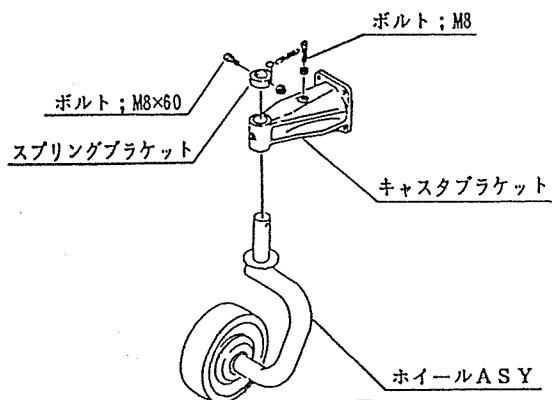
本作業機はホッパを下側にして、天地逆さまに梱包されています。

下記の順序に従って組み立ててください。

- (1) スタンドASYをヒッチにボルト；M8×20で取付けます。



- (2) ホイールASYとスプリングブラケットをキャスタブラケットにボルト；M8×60で取付けます。
- (3) スプリングをキャスタブラケット部のボルト；M8とスプリングブラケットに引掛けます。



- (4) スタンドを立て、作業機を水平状態に起こします。

4 ティラーへの装着

1. ティラーへの連結

▲ 注意

●作業機をティラーに着脱する時、エンジンをとめずに行うと、誤操作によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

●作業機をティラーに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、ティラーが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- (1) ティラーのヒッチロックレバーを「解除」にしてください。
- (2) ティラーの走行クラッチレバーとPTOクラッチレバーを「切」にし、チェンジレバーを「N」にしてください。
- (3) エンジンを止めてください。
- (4) ティラーのハンドルを最下段にしてください。
- (5) ティラーのスタンドを折りたたみ、ハンドルを持ち上げるようにしてヒッチ部を合わせ、ハンドルを下へ押し下げてください。
- (6) ティラーのヒッチロックレバーを「ロック」してください。
- (7) 作業機のスタンドを折りたたんでください。

取扱い上の注意

PTOジョイントが入らない時は、作業機をティラーから切り離してください。

PTOクラッチレバーを「入」にして、エンジンのスタートノブを少し引き、PTOジョイントの位置を変えて、最初からやり直してください。

2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. ティラー各部の点検

ティラーの取扱説明書に基づき点検を行ってください。

2. 連結部の点検

(1) ティラーと作業機の連結部点検

- ① ティラーのヒッチロックレバーが「ロック」になっているか。
- ② ティラーのスタンドが折りたたまれているか。
- ③ 作業機のスタンドが折りたたまれているか。
- ④ 不具合が見つかった時は、「1-4-1 ティラーへの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

3. 製品本体の点検

- (1) 各ボルト、ナットのゆるみはないか。不具合が見つかった時は、増し締めしてください。
- (2) タイヤの空気圧は十分か。不具合が見つかった時は、275 KPa (2.8 kg/cm²) になるように調整してください。
- (3) 各部の給油は十分か。油脂が不足している時は、「2-2 純油箇所一覧表」の説明に基づき、給油してください。

2 純油箇所一覧表

- 純脂するグリースは清浄なものを使用してください。
- グリースを純脂する場合、適量とは古いグリースが排出され、新しいグリースが出るまでです。

No	給脂場所	箇所	潤滑油の種類	交換時期	量	備考
1	キャスターブラケット	1	グリース；2号	使用毎	適量	グリースニップル
2	レバー回動支点	1	オイル	"	"	注油

※ギヤボックスには良質なリチウム系グリース；2号(200g)を封入しておりますので交換は不要です。

3 作業の仕方

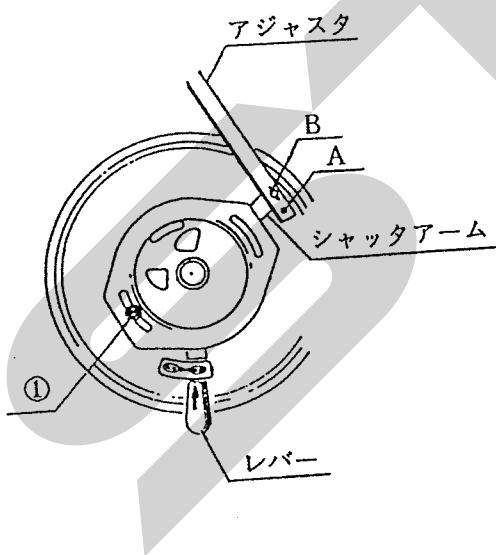
1 本製品の使用目的

本製品は、粒状肥料（高度化成など）、砂状肥料（ヨーリンなど）の散布に使用します。
他の用途には使用しないでください。

2 作業のための調整

1. レバーの調整

- (1) アジャスタをシャッタアームからはずします。
- (2) ボルト①（2箇所）を緩めます。
- (3) 肥料の種類に応じてレバーの位置を合わせ、ボルト①を締めます。
- (4) アジャスタをシャッタアームと連結します。
粒状肥料の場合 A の穴、砂状肥料の場合 B の穴に連結してください。
- (5) シャッタレバーを全閉にし、落下口が全閉となるよう、アジャスタに固定しているロッドのネジ部にて微調整してください。
- (6) ナットがしっかりと締まっているか、ベータピンがきちんと入っているか確認してください。



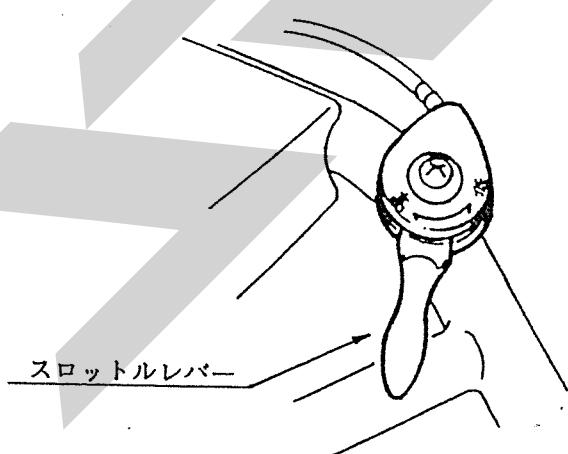
2. エンジン回転数の調整

エンジン回転数はスロットルレバーを「低」と「高」の3分の2の位置（1600 rpm）に合わせて、作業してください。

取扱い上の注意

エンジン回転数により散布幅が変わります。
より良い散布性能を発揮するために、上記エンジン回転数で作業してください。

散布の際、散布口を閉じたまま、PTOを回さないでください。



3. ティラーの車速

車速	変速	エンジン回転数
2. 8 km/h	3速	1600 rpm
1. 6 km/h	2速	

4. 散布量の調整

散布量は、ストップで10段階に選べます。
下記の表を参照して開度を決めてください。

(例)

高度化成(粒状肥料)を10アール当り30kg
散布したい場合、下記開度にストップを合わせて
作業をしてください。

- ・ティラー車速2. 8km/h(3速)で開度5
- ・ティラー車速1. 6km/h(2速)で開度4

なお、肥料の種類は、次の2種に大別しております。

- ・粒状肥料(例;高度化成など)
- ・砂状肥料(例;ヨーリンなど)

開度別散布量

ティラー速度に応じた散布量

(単位 kg/10a)

肥料	散布幅	速度	開度2	3	4	5	6	7	8	9	10
粒 状	6m	2. 8km/hr(3速)	3	7	17	31	44	66	91	116	151
		1. 6km/hr(2速)	6	12	30	54	78	116	159	203	265
砂 状	3m	2. 8km/hr(3速)	7	26	47	86	129	181	238	297	370
		1. 6km/hr(2速)	12	45	83	150	226	317	416	516	648

(エンジン回転数1600rpm)

3 作業要領

4 運搬

▲警告

- 運転中または回転中、スピナーナーに接触すると巻き込まれ、ケガをすることがあります。
周囲に人を近づけないでください。
- ハウス内などの室内作業をする時、排気ガスにより中毒になることがあります。
窓、戸などを開け、十分に換気をしてください。

1. ホッパは空にしてください。

2. PTOクラッチを切ってください。

3. ティラーと作業機のスタンドが折りたたまれていることを確認し、移動を開始してください。

▲注意

- 散布作業中、飛散物が当たりケガをすることがあります。
周囲に人を近づけないでください。

1. 肥料

乾燥したものを使用してください。
湿ったものはホッパ内で固まったり、散布ムラの原因となります。

2. 肥料の投入

移動中の振動による固まりを防ぐため、肥料の投入は、圃場に着いてから行ってください。
作業前にホッパ容量と散布量を考慮し、あらかじめ圃場各所に肥料を置いておくと能率の良い作業ができます。

4 作業が終わったら

長持ちさせるために、手入れは必ずしましょう。

1 作業後の手入れ

▲注意

- エンジンをとめずに、回転部や可動部の付着物の除去作業などを行うと、誤操作または第三者の不注意によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、巻き込まれてケガをすることがあります。
PTOクラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

1. ボルト、ナット、ピン類のゆるみ、脱落がないか。
又、破損部品がないか確認してください。
不具合が見つかった時は、ボルトの増し締め、部品の補修又は交換をしてください。
2. 作業終了時は水洗いをし、ホッパ内の肥料を取り除いてください。
特に、ホッパプレートとディスクプレートの間の肥料はきれいに取り除いてください。
水洗い後、ホッパ内の水を切るため、ジャストレバーを「全開」にしてください。

2 ティラーからの切り離し

▲注意

- 作業機をティラーに着脱する時、エンジンをとめずに行うと、誤操作によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。
- 作業機をティラーに着脱する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、ティラーが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。

1. ティラーの走行クラッチレバーとPTOクラッチレバーを「切」にし、チェンジレバーを「N」にしてください。
2. エンジンを止めてください。
3. ティラーのハンドルを最下段にしてください。
4. 作業機のスタンドを折りたたんでください。

5. ティラーのヒッチロックレバーを「解除」にしてください。
6. ティラーのハンドルを上に持ち上げるようにして、切り離してください。
7. 後方へ移動して、ティラーのスタンドを立ててください。

3 長期格納する時

1. 機械各部の清掃をしてください。
2. 摩耗した部品、破損した部品は交換してください。
3. 給油箇所一覧表に基づき、油脂を補給してください。
また、回転、回動支点および摺動部には注油してください。
4. 塗装損傷部を補修塗装、または、油を塗布し、錆の発生を防いでください。
5. 格納は風通しの良い屋内に保管してください。
6. やむをえず屋外に保管する時は、シートをかけてください。

5 点検・整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。

機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態で、安心して作業が行えるようにしてください。

▲ 注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、ティラーや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- エンジンをとめずに作業すると、誤操作または第三者の不注意によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。P T Oクラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

1 点 検 整 備 一 覧 表

時 間	点 検 項 目	処 置
新品使用1時間	・全てのボルト・ナットのゆるみ	・増し締め
作 業 前	・ボルト、ナットのゆるみ ・部品の脱落、破損 ・回転部、可動部の給油 ・機械の清掃	・増し締め ・補充、部品交換
作 業 後	ホッパ内の肥料 ホッパプレートとディスクプレートの間の肥料	・「2-2 給油箇所一覧表」に基づき給油 ・「4-1 作業後の手入れ」に基づき清掃
シーズン終了後	・破損部 ・摩耗部 ・塗装損傷部 ・各部の清掃	・補修、部品交換 ・早めの部品交換 ・塗装または油塗布

6 不調時の対応

▲ 注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、ティラーや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こすことがあります。
平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- エンジンをとめずに作業すると、誤操作または第三者の不注意によりティラーが暴走したり、不意に作業機が駆動され、思わぬ事故を起こすことがあります。
P T O クラッチを切り、エンジンをとめ、回転部や可動部がとまっていることを確かめて行ってください。

1 不調処置一覧表

症 状	原 因	処 置
・シャッタ（ディスクプレート）が動かない	・ホッパプレートとディスクプレートの間に肥料が詰まっている ・回動支点部が錆び付いている	・「4-1 作業後の手入れ」に基づき清掃 ・錆を取り除き、グリースを塗布
・肥料がでない	・使用している肥料の水分が高い	・ホッパ内部を清掃し、乾燥した肥料を使用する
・肥料がこぼれる	・肥料の落下口が全閉でない	・「3-2-1 レバーの調整」に基づき調整
・グリースがギヤボックスから漏れる	・オイルシールが傷ついている	・オイルシールを交換

原因や処置の仕方がわからない場合は下記事項とともに購入先にご相談ください。

1. 製品名
2. 部品供給型式（型式）
3. 製造番号
4. 故障内容（できるだけ詳しく）

本 社	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-26-1123 FAX0123-26-2412
千歳営業所	066-8555	千歳市上長都1061番地2 TEL0123-22-5131 FAX0123-26-2035
旭川営業所	070-8004	旭川市神楽4条9丁目3番35号 TEL0166-61-6131 FAX0166-62-8985
豊富営業所	098-4100	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地 TEL0162-82-1932 FAX0162-82-1696
帯広営業所	080-2462	帯広市西22条北1丁目12番地 TEL0155-37-3080 FAX0155-37-5187
中標津営業所	086-1152	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL0153-72-2624 FAX0153-73-2540
花巻営業所	025-0312	岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1 TEL0198-26-5741 FAX0198-26-5746
盛岡事務所	020-0173	岩手県岩手郡滝沢村滝沢字根堀坂552-3 TEL019-694-1661 FAX019-694-1662
仙台営業所	983-0013	宮城県仙台市宮城野区中野字神明179-1 TEL022-388-8673 FAX022-388-8735
小山営業所	323-0158	栃木県小山市梁2512-1 TEL0285-49-1500 FAX0285-49-1560
名古屋営業所	480-0102	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191 TEL0587-93-6888 FAX0587-93-5416
岡山営業所	700-0973	岡山県岡山市下中野704-103 TEL086-243-1147 FAX086-243-1269
熊本営業所	862-0939	熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号 TEL096-381-7222 FAX096-384-3525
都城営業所	885-0004	宮崎県都城市都北町3537-1 TEL0986-38-1045 FAX0986-38-4644